金沢大学広報誌 | アカンサス

Acanthus

No.34
社会貢献号

金沢大学は地域と共により良い社会をつくる

02 [特集]
金沢大学は地域と共により良い社会をつくる
10 最新！16学類NEWS
12 頼れる先輩 学生スタッフ活躍中！
13 CIRCLE&PROJECT
14 CHALLENGE！
15 もっと知りたい！金沢大生の「食」生活

特集

金沢大学は 地域と共に より良い社 会をつくる

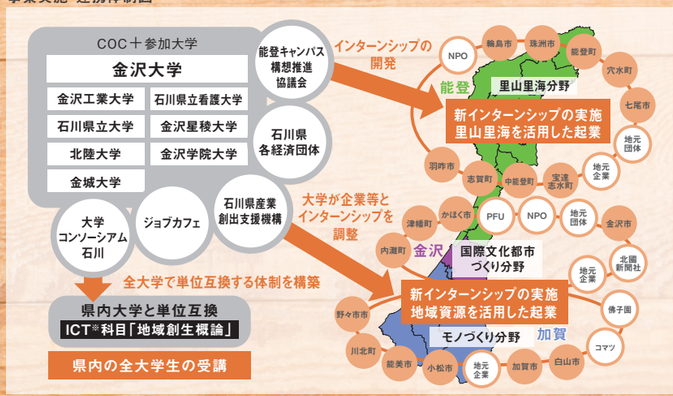
大学は地域に支えられていると同時に,地域を支えています。金沢大学は,地域と本学の持つ教育や研究,医療とが,パズルのピースのように,互いに組み合わさることで,より良い社会をつくり出せると考えています。今回の特集では,社会貢献に向けた新たな取り組みと,本学と地域のそれぞれの要素が組み合わさった姿を取り上げ,本学の社会貢献の今を紹介します。

COC(プラス)＋事業

「金沢・加賀・能登で地域思考型教育による夢と志を持つ人材養成」

文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC＋事業)」は,人口減少による地域経済の縮小及び人口減少を加速させている東京一極集中を解消するための国の施策である「地方創生」の一環として,大学が自治体や企業などと協働し,学生にとって魅力ある地域社会を創出することを目的としています。平成27年9月に同事業に採択された本学は「若者定着が地方創生の鍵」であることから,石川県内の他大学や自治体,地元企業群と協力しながら,県内大学で単位互換できるJMOOC(インターネット上の公開無料講座)などを活用した「教育カリキュラムの開発・実施」,地域の企業とのマッチングを重視した「インターンシップの開発・実施」,さらに「起業環境の場の構築」を主導。平成32年3月までに,本学を含めた県内8大学の卒業生の県内就職率の10ポイント向上をめざします。平成28年1月には県内8大学と全自治体が「石川県における学生定着の取組の推進に関する協定」を締結。石川県知事も参加のもと,地元の関係企業や経済団体なども交えた「第一回いしかわ学生定着推進協議会」を開催し,学生の県内定着に向けた具体な取り組みについて意見交換を行いました。

事業実施・連携体制図



※Information and Communication Technologyの略。ITの異称。

SGHでの交流活動

本学では国際化を進めており,留学生も増えています。国際化と地域貢献,一見相反するようにも見えますが,留学生も地域貢献に参加しています。例えば石川県内で本学附属高等学校と石川県立金沢泉丘高等学校が採択されている文部科学省「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」事業では,留学生が高校生とのディスカッションなどに参加。高校生の異文化理解や英語能力向上に協力しています。

留学生と高校生が英語で互いの文化を紹介

能登里山里海マイスターの養成

棚田が広がる里山や透明度の高い海など豊かな自然が残る能登半島。本学は,能登半島の先端に位置する石川県珠洲市で「地域づくりは人づくりから。自然と共生できる地域社会モデルを提案し,リーダーを育てる」との考えのもと,社会人を対象に「能登里山里海マイスター」育成プログラムを行っています。平成19年度に,珠洲市と周辺の輪島市,穴水町,能登町などの協力を得て前身の「能登里山マイスター」育成プログラムを始め,これまで県外からの移住者30名も含めた約200名が受講。128名が修了し,学んだ知識を植林事業や農業,特産品を使った新商品の開発などにいかしています。平成28年度からは,ICTを活用し,留学生も対象とした新しいマイスター事業を開始する予定です。

落ち葉など堆肥材料集めを体験する「里山管理実習」

教育 × 地域

より良い社会をつくる 地域で育った卒業生

学生は,大学の講義で知識を学ぶだけではなく,地域の中で人と接し,体験し,感じることでも学んでいきます。そんな経験を経て社会に羽ばたいた金沢大学卒業生を紹介します。

地域の良さをいかした仕組みを生み出す原動力になりたい

町を盛り上げる
海士町(あまちょう)
役場職員

地域創造学類
地域プランニングコース
平成25年度卒業

芦原 昇平さん
ASHIHARA Shohei

１年生の頃から,地域での活動に興味がありました。でも,コース必修の「まちづくりインターンシップ」で,本当に地域のためになることを実行する難しさ,自分の経験不足を実感しました。このインターンシップで知り合った方から勧められた本で,積極的な地域おこしにより全国から移住者が集まる離島・島根県海士町に興味を持ち,卒業研究では海士町に調査に行くことに。そこには,地域の課題を自分たちで解決しようと奔走する人たちがたくさんいました。私もそんな海士町の人たちと一緒に仕事をしてみたいと思うようになり,今は海士町の地域振興プロジェクトのスタッフとして働いています。この場所で経験を積むことで,周りの人も巻き込みながら課題の解決に取り組むことができる力を付けて,地域の資源をいかした新しい仕組みづくりで地域に貢献したい,と思っています。

2年
必修科目

まちづくりインターンシップ

3,4人のグループで自治体やNPOの活動を実際に10日間ほど体験し,地域の抱える課題を知り,まちづくりの現場を学びます。さらに,その経験を先輩や地域の方に報告し,意見をもらいながら「自分がどう成長できたか」を顧みます。

国際感覚豊かな
長岡市役所
職員

市役所でいきる,在学中に学んだ「伝える力」と「経験」

国際学類
日本・日本語教育コース
平成23年度卒業

樋口 香織さん
HIGUCHI Kaori

入学当初から興味があり,このコースに進みました。座学に加え,二度の「日本語教育実習」や,地域の外国人の子どもたちに勉強を教えるボランティア活動「子どもスタディサポート」など,実践的なことも多かったです。この経験の中で,物事を進めるための計画の立て方やアプローチの仕方,相手に合わせたやさしく分かりやすい言葉でコミュニケーションをとることの大切さを学びました。長岡市役所に就職し,初めに担当したのは外国人の子どもたちへの支援事業や留学生と市民の交流事業の実施。この仕事を戸惑わずにできたのは,在学中に外国の方を相手にした実践的な経験や学びがあったからだと思っています。また,相手に合わせたやさしく分かりやすい言葉遣いが大切なのは,外国の方に限らず言えること。市の職員として市民の方と接する中でも,分かりやすい言葉遣いを心掛け,責任を持ってこれからも業務を行っていきます。

3,4年
選択科目

日本語教育実習A

留学生に日本語を教える実習授業をとおして,日本語指導を実際に体験します。

日本語教育実習B

受講生のグループで,小規模ながら留学生の配偶者に向けて日本語教室を運営。授業全体をとおして教育計画の作成やその評価なども行っていきます。

地域の健康を
支える
金沢市保健師

顔を合わせて相手を深く知り,信頼される保健師に

保健学科※看護学専攻
平成20年度卒業
医薬保健学総合研究科
平成24年度修了
※現・保健学類

中野 まどかさん
NAKANO Madoka

保健師になりたい,そう思ってこの専攻に入りました。大学４年生の頃受講した「在宅看護実習」で,訪問看護に同行した時お会いした寝たきりの高齢者が,若い頃の趣味をできるようになり,笑顔を見せるようになったんです。いきいき暮らすためにどのような支援ができるか考えること,ご本人の家族の方や生活の背景など全体像を把握することが大切だと学びました。また,健康生活を後押しする自治体の活動に参加する実習もあり,地域での保健師の役割をじかに見て学ぶことができ,やりがいや魅力を感じました。卒業後は,看護師として病院に勤務した後,地域保健の理解をさらに深めたいと思い大学院へ。今は,金沢市の保健師として,生活習慣病の発症・重症化予防のための住民の皆さんへの指導や公民館での健康教育などを行っています。直接会って話すことを大切にして,信頼される支援を提供できるよう心掛けています。

4年
必修科目

在宅看護実習

訪問看護実習と在宅ケアマネジメント実習のいずれかを選択。訪問看護実習では,訪問看護に実際に同行し看護活動を体験しながら,訪問看護の計画を立て,レポートにまとめます。訪問対象者との関わり方などを振り返り,在宅生活を支援する看護を学びます。

研究 × 地域

地域課題の解決を めざして共に挑む

地域のさまざまな課題。それを解決しようとする地域住民の力に,研究者の知恵と技術を合わせ,地域課題に挑んでいます。

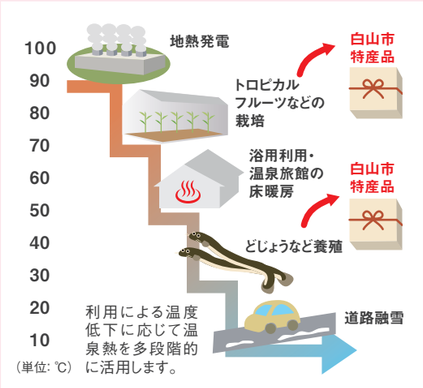
地熱資源で地域振興へ まず住民の理解促進

理工研究域機械工学系 木綿 隆弘教授
KIWATA Takahiro

白山麓の過疎化問題解決のため,地域の方々は地元建設会社・山﨑組社長の山﨑貴文さんを筆頭に,白山周辺に豊富にある温泉や地熱を活用することによる産業活性化をとおして地域振興をめざしています。私はアドバイザーとしてこの取り組みに協力することに。私たちは最終目標を「地熱のカスケード利用の実装による白山市の振興」と定め,地元での地熱の利用方法を検討しています。しかし温泉宿を営む方などからは,地熱開発への慎重論も聞かれました。採掘調査の影響による温泉の泉質変異や湯量減少の可能性を心配する声です。そこで,まず地熱開発に対する不安を取り除くことを重視し,現在,学生たちの力も借りながら地域住民への理解促進を図るための勉強会などを行っています。

P11に関連記事

白山市における地熱のカスケード利用のイメージ図



地域の方に聞きました

株式会社山﨑組 代表取締役社長
山﨑 貴文さん
YAMAZAKI Takafumi

学生さんたちが合宿というかたちで白山市を訪れ,住民へわかりやすい表現で地熱についての説明をしてくれました。勉強会の講師を学生さんが務めることで,意見も出やすく積極的な意見交換の場となりました。

学生に聞きました

自然科学研究科 博士前期課程1年
齋藤 佳輝さん
SAITO Yoshiki

意見交換した地域の方々から,具体的な地熱利用法について多くの質問をいただきました。地熱資源の利用は,地域の方々にとっては生活を直接左右する事業であり,とても関心が高いのだと感じました。

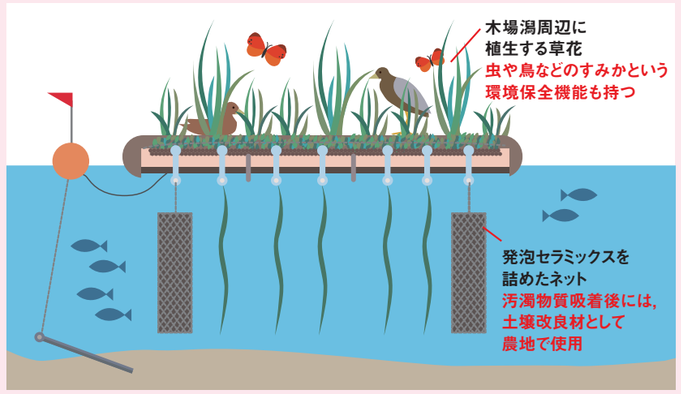
木場潟の環境を守る浮島プロジェクト

環日本海域環境研究センター 長尾 誠也教授
NAGAO Seiya

小松市木場潟は,石川県で唯一自然のままの姿を残し,周囲は公園としても利用されている小松市民の憩いの場。それにも関わらず,長年その水質汚濁が心配されてきました。そんな木場潟で平成25年度に始まった「浮島プロジェクト」は,水質改善機能を持たせた「浮島」の開発を目的としたプロジェクトです。このプロジェクトを小松市,地元企業とともに進めており,私は浮島に吊り下げた,汚濁物質を吸着する発泡セラミックスの性能や,水質を分析・評価する役割を担っています。

また,ミニ浮島を用いた水質改善の実証実験を近隣小学校の池で行い,未来の木場潟を守っていく子どもたちに対する環境教育を行うとともに,小松市内の施設で環境フォーラムを開催し,環境保全の重要性を伝えています。

「浮島」の概要図



市役所の方に聞きました

小松市役所 環境共生部エコロジー推進課
嘉宮 功賀さん
KAMIYA Katsuyoshi

水質汚濁の原因であるリンや窒素を吸着した発泡セラミックスは土壌改良材として使える可能性があり,農業振興につながることも期待しています。また,環境保全や景観への配慮のために,浮島には虫や鳥などのすみかとなる植物を植えています。

産学官連携で 社会インフラを支える 新素材開発

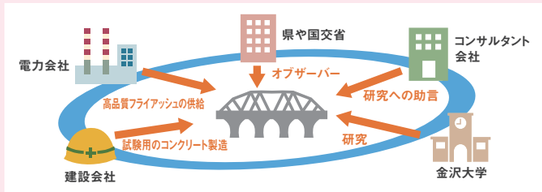
理工研究域環境デザイン学系 鳥居 和之教授
TORII Kazuyuki

北陸地域では,海風と冬季の凍結防止剤散布による塩害や,アルカリシリカ反応(ASR)による劣化が激しく,コンクリートの寿命が大幅に短くなっているのが現状です。そこで注目されたのが,石炭火力発電の際に出る産業廃棄物「フライアッシュ(石炭灰)」を混ぜ込んだ「フライアッシュコンクリート」であり,これは塩害やASRの抑制に効果があると言われています。

鳥居教授は,これらの劣化の抑制効果を最大にするフライアッシュの配合割合を導き出すとともに,電力会社の協力により,品質が揺らぎがちなフライアッシュを高品質に保ちながら供給する体制を整えるなど,産学官連携で実用化を進めてきました。

こうして開発された,低コスト・長寿命のフライアッシュコンクリートが橋や道路などへと姿を変え,社会インフラを支える日が,すぐそこまで近づいています。

フライアッシュコンクリート実用化に向けた産学官連携



医療 × 地域

地域を支える医療，地域に育まれる医療

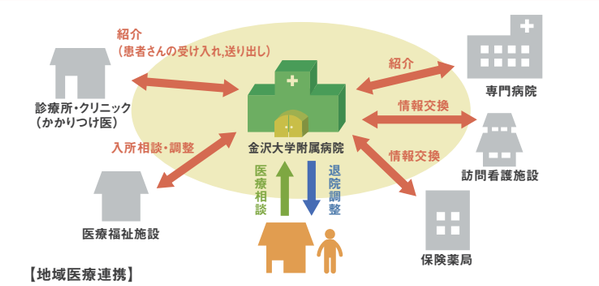
大学が地域の健康を医療で支える,地域が将来の医療の担い手を育む場となる。金沢大学は医療による地域とのつながりを通じて,地域“医療”は,大学と地域が共により良い社会をつくっていくための重要なファクターです。医療の充実に向けたさまざまな取り組みを行っています。

地域の人々の健康を支える医療連携

地域の医療機関との連携

本学附属病院は,高度で専門的な医療を提供する特定機能病院として地域医療機関から紹介された患者を受け入れ,治療を行います。また,症状の安定後は,かかりつけ医など地域の医療機関に送り出します。本院では,地域の医療機関との窓口として地域医療連携室を設置。患者さんや家族が安心して療養生活を送れるようさまざまなサポートを行っています。

地域医療連携のイメージ図



【地域医療連携】
地域の医療機関と大病院が役割を分担し,それぞれの役割をいかしながら相互に連携を図り,地域全体で最適な医療を提供するというもの

医療福祉相談・がん相談

患者さんや家族のさまざまな不安や悩みに対し,地域医療連携室の看護師,医療ソーシャルワーカーが相談にのります。また,相談内容に応じ,医師,薬剤師,さらには自治体などの外部機関とも協力し対応します。

こんな相談にお応えします!

- 療養する転院先をどう選べばいいの?
- 退院後の生活が不安。在宅サービスを利用できるの?
- 医療費が高額で今後の生活のことが不安…
- 仕事と治療の両立はどうしたらいいの?
- 自分が使える医療福祉制度には何があるの?

「がん」に関するサポート

さまざまなサポートを院内外の患者さんや家族,ならびに地域の方に向けて行っています。

社会保険労務士による無料がん就労相談

がん治療と仕事に関連する悩みについて,労務関係や社会保険の専門家である社会保険労務士が相談にのります。

日時:毎週水曜日 13:00〜16:30
(祝日・休診日除く) ※予約制
場所:金沢大学附属病院
地域医療連携室

がんサロン「ハーモニー」

不安や悩みを語り合う場。正しい知識を得るための,専門職によるミニレクチャーもあります。

日時:(原則)毎月第3水曜日
14:00〜15:30
場所:金沢大学附属病院
病棟10階デイルーム

金沢大学附属病院 地域医療連携室

医師,看護師,医療ソーシャルワーカー,事務担当によるチーム体制で対応しています。

問い合わせ:Tel 076-265-2039,2040
受付時間:月曜日〜金曜日 9:00〜17:00(祝日・休診日除く)

地域医療の担い手を育てる研修

地域医療研修in能登

地域医療教育センターでは,主に医学類特別枠※の学生を対象に能登の公立病院で「地域医療研修in能登」を実施。学生は,1泊2日で研修先の病院での診療,当直,患者さん宅に訪問する往診などを見学します。特に往診見学では,大学病院とは異なる接し方で患者さんとの触れ合いを体験することで,患者さんの生活環境も把握して治療にのぞむ姿勢を学び,地域医療の現場への関心を高めることができます。

往診見学

※石川県と富山県の地域医療をリードする人材を育成するために医学類に設けられた入学枠。本枠入学者に対しては県から修学資金が貸与され,卒業後一定期間,県内の公立病院などに勤務します。

金沢大学附属病院 地域医療教育センター

地域医療の質向上と振興に寄与することを目的として設置されたセンター。本学医学類特別枠の学生を主な対象として,地域医療研修in能登,キャリア形成相談,地域医療関係者との交流会などを実施しています。

交流会

特別枠学生(現役,卒業生)のほか,県知事も参加。

特殊な現場で成長を促す山岳医療経験

雷鳥沢近辺の風景

【診療所での1日】

6:00 起床
7:00 朝食
8:00 午前の活動
・診療手伝い
・掃除
・山小屋手伝い
・散策
12:00 昼食
13:00 午後の活動
18:00 夕食
22:00 就寝

予診や診察の補助,薬剤やガーゼの管理・補充など,医師の診療活動のサポートをします。

登山者に声を掛け,天候や登山道の情報提供や健康面でのアドバイスも行っています。

活動している医師は立山診療班OB。夕食後の談話はOBと現役学生が直接交流できる有意義な場になっています。

山で学ぶ医療人としての姿勢

山での診療は薬や医療機器が十分でないため,医師の診断がすべて。患者さんを今すぐヘリで病院へ搬送するか,下山させるか,登山を許可するか,即座の判断が求められ,医療人としての力量が試されます。私たち金沢大学立山診療班は,夏の長期休暇を利用し,山岳医療を経験。医師の診療活動の補助に加え,炊事や掃除なども行います。また,山での診療活動は,登山者の安全をサポートすることも大切な役目。山小屋で働く地元の方々とも協力し,登山者への声掛けも行います。山岳診療の現場を体験でき,また実際に患者さんと接することができる貴重な機会になっています。

山の上では「会話」が大切。患者さんから情報を聞き出す重要な手段です。

立山診療班代表/医学類4年
吉村 敬介さん
YOSHIMURA Keisuke

金沢大学立山診療班

7月下旬から8月下旬にかけて,山岳警備隊,周辺の山小屋や環境省の関係者の協力のもと,富山県立山の室堂・雷鳥沢・剱沢の3つの診療所で医師の診療活動の補助を行っており,毎年約50名の学生が参加しています。

金沢大学立山診療班: http://kum-tateyama-shinryouhan.jimdo.com

最新! 16学類NEWS

金沢大学3学域・16学類より最新のとれたて「旬」な情報が届きました!
イベントや近況,注目の研究など
個性豊かな金沢大学の現在を身近に感じてください。

人間社会学域 College of Human and Social Sciences

人文学類 先魁(さきがけ)※プロジェクト「若年世代の人間科学」のシンポジウム開催

先魁プロジェクト※「グローバル時代における若年世代の価値に関する人間科学」では,轟亮教授を代表として若者の価値観と行動を正しく理解することに取り組んでいます。9月には公開シンポジウムとして「現代日本の若年世代の価値と行動」を開催。学生や一般の方々も交え,若者の友人関係などをテーマに活発な議論を行いました。

法学類 高齢消費者被害防止のための寸劇出前講座

法学類公認サークル「金沢法友会」は,石川県の高齢消費者被害防止寸劇出前講座事業採択を受け,かほく市,羽咋市,珠洲市で寸劇を披露しました。複数の者がさまざまな肩書きで次々と電話をかけお金を騙し取る,劇場型詐欺という手口を学生らが実演。参加者は周囲の人と注意を呼び掛け合うことの重要性を再認識しました。

経済学類 ビジネス・ファイナンスゼミ生が日本FP学会賞を受賞!

松浦義昭講師のビジネス・ファイナンスゼミの学生が,北陸3県の小・中・高校を訪問し,学校における金融リテラシー教育の実施状況を調査。その結果と提言をまとめた論文が,第10回日本FP学会賞を受賞しました。また,訪問時には,調査に協力いただいた各学校の先生や各県の教育委員会の方と交流を深めました。

学校教育学類 美術専修同窓展(OB展)開催! 今年度は金沢大学資料館で

11月17日から27日の11日間にわたり,「美術専修同窓展(OB展)」を開催しました。今年度は,会場を昨年度までの金沢市民芸術村アート工房から金沢大学資料館へと変更するとともに,開催期間も例年よりも長く設定したことにより,多くの現役学生らが卒業生の力作を鑑賞に訪れる,芸術の秋にふさわしい企画となりました。

地域創造学類 イギリス・リーズ大学障害学研究センターで障害学を学ぶ

田邊浩教授は本学の教員研修制度により,6月から,障害学の世界的拠点であるイギリス・リーズ大学障害学研究センターで研究しています。同センターでは,社会の側こそが障害者の自立を妨げる「障害」を作り出しているという「障害の社会モデル」の思想のもと研究が行われており,ここでの経験が本学の教育研究にいかされることが期待されます。

田邊教授(左)

国際学類 国際学類サロン&先魁プロジェクトシンポジウム開催!

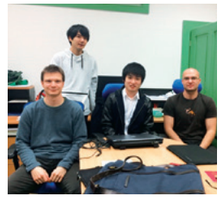
深澤のぞみ教授を代表とする先魁プロジェクト※の中間報告会と国際学類サロンを兼ねたシンポジウムを12月に開催。独立行政法人国際交流基金の柴原智代氏による講演やプロジェクトメンバーの研究報告,パネルディスカッションなどをとおし,グローバル化社会における外国語教育について考える機会となりました。

※本学の次世代を担う研究グループの育成をめざす取り組み

理工学域 College of Science and Engineering

数物科学類 学生2名がチェコ工科大学へ留学!

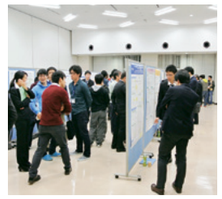
数物科学類・専攻では,ヨーロッパ諸大学との学生交流を推進しており,今年度は5名の派遣を予定しています。そのうち,小林広典さん(博士前期課程1年)と山岡良平さん(学類4年)は,金沢大学教育改革GPの支援を受け,10月26日から約2か月間チェコ工科大学に派遣され,大いに刺激を受け帰国しました。



小林さん(中央左)と山岡さん(中央右)

物質化学類 第2回物質化学専攻フォーラムを開催

11月4日,第2回物質化学専攻フォーラムを開催しました。これは大学院生,学類生,教員の交流や研究活性化を目的に毎年実施しているもの。前身である物質科学専攻フォーラムから数えて12回目となります。今回は教員と博士後期課程の学生による講演7件と大学院生のポスター発表30件があり,活発な研究交流が行われました。



機械工学類 白山麓で温泉熱の有効活用に関する勉強会を開催

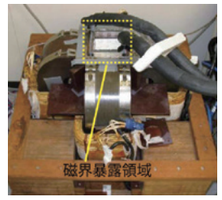
石川県の白山中宮温泉で流体工学研究室と熱機関研究室の学生が旅館施設のエネルギー利用状況を調査。地熱の有効利用法の提案や燃料コスト削減量などの試算,自然湧出源泉の見学などを行い,地域住民や温泉関係者と地域における温泉熱の可能性について意見交換しました。

P6に関連記事

自然湧出源泉を見学

電子情報学類 異分野融合研究 磁界の医療応用に向けて

磁気応用研究室では,磁界の生体影響に関する研究を行っており,写真の装置で細胞を磁界にさらして(磁界暴露)細胞への薬剤作用の変化を測定し,磁界と薬剤の相乗効果を見出しました。現在,局所的な磁界暴露により標的部位のみを効果的に薬剤治療できるような,磁界の医療応用をめざして研究を行っています。



環境デザイン学類 大気中のナノ粒子とバイオマス燃焼の関係を熱く議論

古内正美教授が代表を務める東アジアの研究者有志による環境ナノ粒子観測網「東アジアナノ粒子モニタリングネットワーク(EA-Nanonet)」では,平成26年10月に初の共同観測を実施。平成27年12月にはタイで6か国約50名が参加するワークショップを開催し,インドネシア森林火災などのバイオマス燃焼の環境影響を議論しました。

自然システム学類 山田敏弘准教授が松下幸之助記念奨励賞を受賞!

山田敏弘研究室では,分子発生学と古植物学の手法を用いて,花の咲く植物(被子植物)と絶滅したシダ種子類の体の成り立ちが似ていることを世界で初めて示しました。進化論が提唱されてからも謎のままだった「被子植物の起源」の解明に大きく貢献したことが評価され,第24回松下幸之助記念奨励賞を受賞しました。

山田准教授(中央)

医薬保健学域 College of Medical,Pharmaceutical and Health Sciences

医学類 MRTプログラム発表会「学内リトリート」開催!

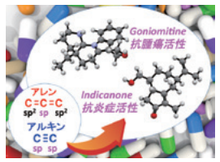
基礎医学研究者・研究医の養成のため平成24年から始めたメディカルリサーチトレーニング(MRT)プログラムの発表会「学内リトリート」を6月と11月に開催。学生による研究成果発表や海外医学研修報告,教員による研究紹介や体験談など充実した内容で,非常に盛況でした。この中から将来,ノーベル賞の受賞者が現れるかも?

薬学類 「病院実習I」基礎実務実習報告会を開催

5年生が行う金沢大学附属病院での11週間の実習では,前半の約3週間で,処方箋をどのような見方で確認して調剤するかといった基礎実務実習を行い,講義で学んだ知識の活用の仕方を実際に体験して学びます。報告会での発表をとおし,実習を振り返って知識を定着させ,プレゼンテーション能力を向上させることができました。

創薬科学類 向智里教授が日本薬学会賞を受賞!

精密分子構築学研究室の向智里教授が「sp混成炭素を基軸とする新規環構築法の開発と生理活性物質の合成」で,平成28年度日本薬学会賞を受賞することが決定。アルキンなどの多重結合成分を利用して新たな反応を開発し,複雑な骨格の効率的合成法を確立。それらを利用して20種以上の天然物や生理活性化合物の全合成を達成したことが評価されました。



全合成した天然物

保健学類 磁気共鳴画像の新たな画質評価法開発で優秀論文賞を受賞!

生体における磁気共鳴画像(MRI)の画質評価は,従来の手法では問題点が多く困難でした。この問題点を改善するために,宮地利明教授は丹羽慶彰さん(博士前期課程2年)とともに簡便かつ正確なMRIの画質評価法を新たに考案しました。この研究成果を国際学会で発表し,非常に高い評価を得て見事に優秀論文賞を受賞しました。

丹羽さん

金沢大学の学生支援

頼れる先輩 学生スタッフ活躍中!

金沢大学には,先輩が後輩の学びを応援する仕組みがあります。

授業中に。課題に取り組んでいる時に。自習している時に。さまざまな場面で学生スタッフとして後輩の学びをサポートする,頼れる先輩がたくさん活躍しています。

授業の理解度がUP!

学生ならではの目線で授業の学びをサポートします。

ティーチング・アシスタント(TA)

どんな人が,何をするの?

大学院生が,共通教育科目や,主に実験,演習形式の専門科目でサポートします。

具体的には?

例えばパソコンを使う授業ではその操作方法について,実験の授業では器具の取り扱い方についてなど,個別の疑問にすぐに答えられるようTAが入ります。また,授業時間外の質問にも対応し,授業内容定着の手助けをします。

NEW さらに高度に

高度ティーチング・アシスタント(高度TA)

「高度TA向け体系的研修プログラム」を受講した上で,講義資料やレポート課題の作成,補習講義の担当をするなど,授業の内容にまで深く関わるサポートをします。

アクティブ・ラーニング・アドバイザー(ALA)

どんな人が,何をするの?

学類2年生から大学院生が,アクティブ・ラーニング※(AL)の手法を研修で学び,AL型授業を行う専門科目でサポートします。

※教員が一方的に知識伝授するのではなく,課題研究やディスカッション,プレゼンテーションなど,学生の能動的な学修を取り込んだ授業スタイルのこと。

具体的には?

ディスカッションやグループワークを多く取り入れるAL型授業では,教員1人ですべてのグループに目配りすることが困難です。そこで,グループワークや発表についてのアドバイス,質問対応をきめ細かく行うためにALAが入ります。さらに,授業時間外にも,レポート作成やグループ発表準備に対する助言など行うことで,授業内容をより深く理解するための手助けをします。

学びの基礎力がUP!

学びの基礎となる自学自習のポイントをアドバイスします。

ラーニング・アドバイザー(LA)

どんな人が,何をするの?

学類3年生から大学院生が,中央図書館と自然科学系図書館のラーニング・サポート・デスクでアドバイスします。

具体的には?

レポート・論文の書き方や,プレゼンテーション資料の作成方法,発表の仕方などについてアドバイスをするほか,資料の探し方といった,図書館の効果的な利用方法も教えています。加えて自然科学系図書館では,多くの科目の土台となる高校レベルの数学や物理などの理系科目に関する質問にも回答します。

留学生ラーニング・コンシェルジュ(LeCIS)

どんな人が,何をするの?

大学院生で,外国語(英語,中国語など)での質問に対応できる日本人学生か,日本語での日常会話ができる留学生が,中央図書館と自然科学系図書館の国際交流ルームでアドバイスなどをします。

具体的には?

留学生を対象として, LAと同様のサポートを外国語で行っています。また,日本人学生に対しては留学や国際学会での発表予定がある時,外国語での会話の練習相手になります。

輝く金沢大生

CIRCLE&PROJECT

金沢大学で活動するサークルやプロジェクトをピックアップして紹介します。

CIRCLE | 将棋部

仲の良さが強さの礎 全員で勝利への駒を進める

将棋部は,教え合う環境がいい。普段の練習では部員同士で対局し,観戦した部員も交えて互いの手について振り返る「感想戦」を行っている。先輩・後輩の区別なく本音をぶつけてアドバイスし合いながら部員同士は仲を深め,初心者も段を持つまでに成長していく。

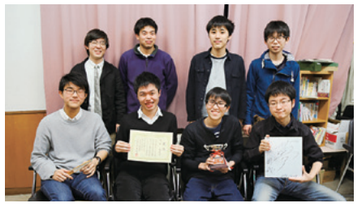
個人戦のイメージがある将棋だが,大学将棋の醍醐味といえば,1チーム5人(大会により7人)が一斉に対局する団体戦だ。対局者が粘り強く盤に向かう一方で,応援する部員も次の対戦相手の戦法を調べるという重要な役割を担っている。「大学将棋は全員が大事,全員が欠かせない。その雰囲気が好きです」と代表の石川翔一さん(物質化学類2年)は語る。

今年度は富士通杯・学生王座戦と全国大会に出場し好成績を収めた。学生王座戦で金沢大学初の団体戦個人全勝賞を手にした西澤佑亮さん(学校教育学類1年)は「部全体で将棋を楽しむことが大切」と笑顔を見せる。

金沢大学将棋部はチームワークを強みに強豪大学に肩を並べ,これからも棋力に磨きをかけていく。

平成27年度の団体戦戦績

・北信越春季大会	優勝
・富士通杯	6位
・北信越秋季大会	優勝
・学生王座戦	9位



チームワークが好成績を導いた(西澤さん:前列中央左,石川さん:同右)

一手への集中力が戦局を左右する

PROJECT | 学生国際交流団体「KISSA」

留学生と日本人学生との交流の懸け橋に

金沢大学の留学生に,日本文化に触れ日本人学生との交流を深めてもらうことを目的に活動しているのが学生国際交流団体「KISSA」だ。気軽に会話を楽しむ「KISSA CAFE」,言語交換イベント「コトノハ」,金沢ツアーなどの「週末イベント」を企画して,両者の交流を応援している。「友だちをつくって金沢での生活をもっと楽しんでもらいたい」と代表の松本和樹さん(経済学類1年)の言葉には力がこもる。

イベントは企画好きが立ち上げ,広報上手が宣伝し,語学の堪能な人が交流をサポートする。氏平舞咲(うじひらまさき)さん(国際学類1年)は「一人一人が持つ力を発揮して活躍できる,それがKISSAの魅力です」と語る。互いの得意分野を尊重しながらもハプニングがあればフォローし合うなど,スタッフのフットワークが軽く積極的なのは,国際交流の輪を育むことに喜びを見出しているからだ。

「また参加したい」との声を励みに,ミーティングではさらなるイベント企画を練る。留学生が増える金沢大学で,KISSAはますます存在感を発揮していくだろう。

KISSAロゴマーク
「喫茶店」「個性豊かな」「くつろげる場所」…パーツ一つ一つがKISSAの活動を表現する

金沢ツアーで観光地を一緒に巡る参加者ら

参加者に楽しんでもらうためミーティングは綿密に

Kanazawa University

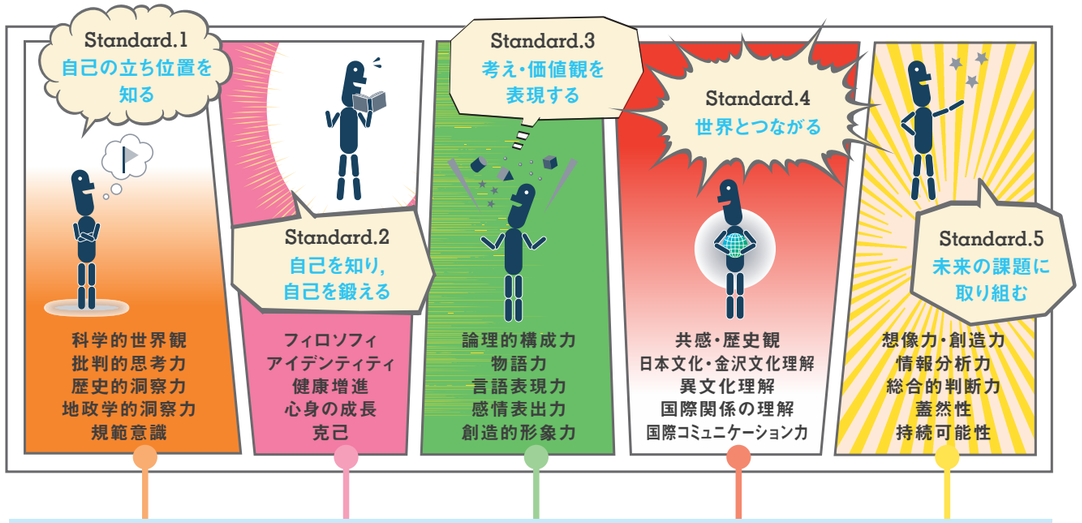
CHALLENGE!

今後さらに変化が予想されるグローバル社会の中で,金沢大学はいかなる困難な状況においても柔軟に対応できる真のグローバルリーダーを養成するための教育プログラムを構築します。

金沢大学はKUGSで,学生のリーダーシップを育む教育の実現にチャレンジします!

KUGSとは?

金沢大学〈グローバル〉スタンダード(Kanazawa University "Global" Standard)のこと。
本学が育成する人材像を明示したもので,
常に恐れることなく現場の困難に立ち向かっていくために必要な能力・体力・人間力を
5つのスタンダードで具体的に表しています。



それぞれの能力を身に付けるために・・・

KUGSの理念を踏まえて,**1年生から大学院生まで,KUGS教育プログラムを体系的に**実施します。
これらは,GS※科目,GS言語科目,学域GS科目,学域GS言語科目,大学院GS科目で構成されます。

学士課程	共通教育	GS科目 共通教育新カリキュラムとして,平成28年4月からスタート。すべての学生は,30科目の中から15単位を選択します。 GS科目は本学として学生に学ばせたい科目を体系的に厳選したものであり,本学学生として必ず身に付けるべき内容を学修していきます。				
		1.自己の立ち位置を知る	2.自己を知り,自己を鍛える	3.考え・価値観を表現する	4.世界とつながる	5.未来の課題に取り組む
		【Ⅰ類】 1.現代社会への歴史学的アプローチ 2.グローバル時代の政治経済学 3.グローバル時代の社会学 4.ケーススタディによる応用倫理学 【Ⅱ類】 5.地球生物圏と人間 6.物理の世界/化学の世界	【Ⅰ類】 1.哲学(自我論) 2.パーソナリティ心理学 3.グローバル時代の文学 【Ⅱ類】 4.健康科学 5.細胞・分子生物学 6.エクササイズ&スポーツ 実技	1.プレゼン・ディベート論(初学者ゼミⅡ) 2.クリティカル・シンキング 3.価値と情動の認知科学 4.論理学から見る世界/数学的発想法 5.芸術と自己表現 6.スポーツ科学	1.金沢・能登と世界の地域文化 2.日本史・日本文化 3.異文化間コミュニケーション 4.異文化体験 5.国際社会とボランティア 6.グローバル社会と地域の課題	【Ⅰ類】 1.科学技術と科学方法論 2.統計学から未来を見る 3.情報の科学 【Ⅱ類】 4.環境学とESD 5.生活と社会保障 6.人権・ジェンダー論
		【Ⅰ類】から1単位,【Ⅱ類】から1単位を含む3単位以上を履修	【Ⅰ類】から1単位,【Ⅱ類】から1単位を含む3単位以上を履修	「プレゼン・ディベート論(初学者ゼミⅡ)」(必修)を含む3単位以上を履修	任意の3単位以上を履修	【Ⅰ類】から1単位,【Ⅱ類】から1単位を含む3単位以上を履修
		GS言語科目 [必修言語科目。英語,または日本語(留学生)。]				
	専門教育	学域GS科目,学域GS言語科目				
大学院課程		大学院GS科目				

※Global Standardの略

もっと知りたい!

金沢大生の「食」生活

〜おいしく元気に! キャンパスで手に入れる充実ライフ〜

学生たちの食生活ってどうなっているの?今回の「もっと知りたい!」では,学生生活を支える「食」に注目。食をとおしたキャンパス内での過ごし方やお薦めポイントを紹介します。

Morning

朝ご飯で元気に!

医学類1年
押尾(おしお) 香那(かな)さん

朝食セルフバー

授業日の8:00〜11:00に,キャンパス内の2つの食堂で提供しています。

- **大学会館食堂**
  1年生がよく利用します!
- **南福利食堂フレポ**
  学内最大の食堂で席数はなんと630席!

おかずは約10種類から選んで,すべて**1g=1.3円**で食べることができます!

今回は351円(税込)でした!

Lunch

お昼ご飯はどうするの?

食堂・喫茶に,外でのランチも!

キャンパス内の9か所の食堂や喫茶でお昼ご飯を食べる学生もいれば,天気の良い日は,外のベンチで持参したお弁当を食べる学生もいます。

Between-meals

おやつにどうぞ

焼き立てパン

キャンパス内で作られるパンは12時頃から焼き立てほかほかの状態で売店に並びます。学生に大人気で,お昼過ぎには売り切れることも!

ちくわとツナマヨ入りの
ちくわん

和風が意外にマッチ
めんたい子

みんな大好き
チョコチップメロン

Event

気軽に参加しよう!

経済学類2年
臼井(しらい) 大也(まさなり)さん

食育プログラム

金沢大学保健管理センターが学期中
月に1,2回さまざまな食育プログラムを提供しています。

例えばこんなプログラム

野菜たっぷり簡単朝食スープ試食会,和菓子と抹茶で金沢体験 etc…

レシピ付きなので自宅でも作れます!

〈加賀野菜を使ったおもてなし料理教室の様子〉

管理栄養士による指導のもと料理に取り組む

作った料理はみんなで食べます!

メールやポスターで開催案内があるよ!要チェック!

源助大根やセリなどの加賀野菜を使った和風会席が完成!

金沢大学広報誌「Acanthus」No.34
アンケートにご協力ください

「Acanthus」に関する皆さまのご意見・ご感想を同封はがきまたは Web サイトでお寄せください。頂いたご意見は今後の誌面作りの参考にさせていただきます。なお , アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で 5 名さまに, 金沢大学オリジナルメモ帳をプレゼントいたします。

※プレゼント当選者の発表は商品の
発送をもって代えさせていただきます。

【応募締切】平成 28 年 6 月末日

アンケートページはこちら
http://www.kanazawa-u.ac.jp/34a

KANAZAWA UNIVERSITY

発行日／2016年3月1日　発行／金沢大学 総務部 広報室　〒920-1192 金沢市角間町 TEL (076) 264-5024 koho@adm.kanazawa-u.ac.jp
広報誌「アカンサス」の配付を毎号希望される同窓会には有償で増刷いたしますので,所要数をご連絡ください。